

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90分

## 解答形式

記述・論述・描図・計算・選択

## 分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴

IVの岩石鉱物が中心の問題は近年では珍しい。

## その他トピックス(入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

特になし。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 計算	天文 連星	地学	例年より計算問題は相当易しい。有効数字も少なく、証明問題も含まれる。	やや易
II	記述 論述 描図 選択	大気・海洋	地学	計算問題もなく易しい。描図は手際よく作り上げたい。	やや易
III	記述 論述 計算	プレートテクトニクス	地学	オイラー極の話は、教科書によって扱いに差があるが、本文を読みこなせば難問ではない。	標準
IV	記述 論述 計算	岩石鉱物	地学	問4(2)(3)の答を誤ると他の答えに影響するが、計算自体は易しい。	やや易

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

解答形式が多様であり、論述・計算問題の占める比率の高さが特徴的である。

本年の計算問題は易しかったが、平均的にはもう少し難度が高いことを覚悟しておく方がよい。

いずれにせよ、論述力・計算力を高めるための勉強法を考えるべきである。